

## 公益社団法人日本地震学会 2023 年度定時社員総会議事録

1. 開催日時 2023 年 6 月 12 日（月）10 時 30 分～12 時 00 分
2. 開催場所 新型コロナウイルス感染拡大予防のため Zoom を利用したビデオ会議により開催  
議長：国立研究開発法人 産業技術総合研究所 茨城県つくば市東 1-1-1 中央第 7  
議事録作成者：日本地震学会事務局 埼玉県さいたま市大宮区仲町 2-80-1 KS・Dio 205
3. 総社員数 140 名
4. 出席社員数 出席代議員総数 113 名（定足数 71 名）  
内通常代議員 97 名  
役員代議員 16 名  
出席代議員数（本人出席） 81 名  
出席代議員数（議決権行使書出席） 32 名
5. 議長 通常代議員 内出 崇彦
6. 出席役員

理事（会長）	小原	一成
理事（副会長）	室谷	智子
理事（副会長）	久田	嘉章
理事（常務理事）	河合	研志
理事	吾妻	崇
理事	新井	隆太
理事	安藤	亮輔
理事	勝俣	啓
理事	加納	靖之
理事	篠原	雅尚
理事	利根川	貴志
理事	中川	和之
理事	西村	卓也
理事	松島	信一
理事	三井	雄太
監事	山岡	耕春
監事	鈴木	善和
7. 議事録作成者 事務局 中西 のぶ江

## 8. 決議事項

- 第1号議案：2022年度事業報告書承認の件
- 第2号議案：2022年度収支決算報告書承認の件
- 第3号議案：役員報酬の件
- 第4号議案：名誉会員承認の件

## 9. 報告事項

- 1. 2023年度事業計画の件
- 2. 2023年度収支予算の件
- 3. その他

### 10. 議事の経過の要領及びその結果

事務局が Zoom ウェビナーでの出席者名の確認及び執行部と参加者の意思疎通ができることを確認した。河合常務理事から定足数を充たす社員の出席が認められたので、定款第32条により公益社団法人日本地震学会2023年度定時社員総会を開催する旨の宣言があり、小原会長より挨拶が行われた。引き続き議長に内出崇彦氏を選出した。議長より、本日の議事の経過を議事録にまとめるにあたり、小原一成会長、久田嘉章副会長の理事2名を議事録署名人に選任したい旨を諮り、賛成多数でこれを可決した。続いて、次の議案について逐次審議することとなった。

- |       |   |
|-------|---|
| 第1号議案 | 2022年度事業報告書承認の件<br>議長の指名により、河合常務理事から2022年度の事業報告書について、配布資料に基づき説明が行われた。質疑応答はなく、議長は議案を諮り賛成多数で本議案を承認した。   |
| 第2号議案 | 2022年度収支決算報告書承認の件<br>議長の指名により、安藤会計担当理事から2022年度の収支決算報告書について、配布資料に基づき説明が行われた。質疑応答はなく、議長は議案を諮り賛成多数で本議案を承認した。                                       |
| 第3号議案 | 役員報酬の件<br>議長の指名により、河合常務理事から定款第18条第7項による監事の報酬において配布資料に基づき説明が行われた。報酬額について前年度からの変更の有無について質問があり、変更はないと回答した。議長は議案を諮り、賛成多数で本議案を承認した。                  |
| 第4号議案 | 名誉会員承認の件<br>議長の指名により、河合常務理事から平原和朗会員の名誉会員への推薦について配布資料に基づき説明が行われた。名誉会員の推薦手続きについて質問があり、手続きについては事務局に照会するよう回答した。議長は議案を諮り、賛成多数で平原和朗会員を名誉会員とすることを承認した。 |
| 報告事項1 | 2023年度事業計画の件<br>2022年度第7回理事会（2023年3月15日開催）で承認された2023  |

年度事業計画について、河合常務理事から配布資料に基づき説明が行われた。

報告事項2 2023年度収支予算の件  
2022年度第7回理事会（2023年3月15日開催）で承認された2023年度収支予算について、安藤会計担当理事から配布資料に基づき説明が行われ、質疑応答があった。

質問：ダイバーシティ推進委員会の予算額が計上されていないが、大会時の託児補助についての予算は計上されているのか？

回答：各大会開催経費の予算に託児費用は組み込んでいる。

報告事項3 選挙制度検討ワーキンググループからの提言  
選挙制度検討ワーキンググループからの提言について、小原会長から配布資料に基づき説明が行われた。提言を受け、理事会では技術的に可能なことは実施していきたいとの発言があった。また若手の意見をくみ上げる方法について検討内容が紹介された。その後、以下の質疑応答があった。なお、質疑応答の後、小原会長から、提言にある通り会長・理事等の役員代議員については定数を超える積極的な立候補をお願いしたいとの発言があった。

質問：地震学会は若手の活動の機会が与えられているのではないか。機会はあるから若手に参加するように促す議論なのか。

回答：明示的な機会が与えられていないのではと捉え、新たにその機会を設置することを考えている。

質問：委員会活動とした場合、若手の負担になるのではないか。

回答：負担が集中しないように配慮をすることが必要と考えている。

質問：ダイバーシティ推進委員会で若手の活動を支援することは、今から検討することで決まったのか。

回答：一つのアイデアであって、効率的で負担がかからないようなやり方を検討したい。

質問：選挙制度の検討についてはデータの検証が必要である。代議員の年齢分布などを出してはどうか。

回答：個人情報に配慮し公開の範囲を含めて検討したい。

質問：地震学会での若手が参加できる企画をしてはどうか。

回答：他学会の情報などを参考に検討していきたい。ぜひ情報をお寄せ

いただきたい。

意見：若手の会員に代議員制度も含めて学会活動に興味を持ってもらうことが必要と考えている。長く会員を続けてもらうことは学会活動の活性化と会員数の安定につながり、これは財政安定にもつながる。若い人が参加しやすい学会を作ることが重要と考える。若手に何かやってもらうことは重いかもしれないが意見収集するシステムを作ってはという意図で若手委員会の設置が提言されたが、手法はこれに限らないと思う。

引き続き、小原会長から学会の財政状況改善についての検討について説明が行われた。経費削減の努力をしているが収入が増えないため、赤字となっていること、経費削減努力はしつつも学会活動は積極的に推進し、会員が会員であることのメリットを感じられるような活動を検討しており、財政改善のため表彰事業における副賞の廃止、会費の改定を検討しているとの報告があった。

小原会長の財政状況改善についての説明を踏まえ、安藤会計担当理事から財政の現状が説明され、検討している会費改定のシミュレーションについて値上げ幅と会員数の減少傾向を踏まえたいくつかのケースが紹介され、質疑応答および意見があった。

質問：会員や賛助会員の減少の分析は進んでいるのか。なぜ辞めるのかの分析や、会員になりうる新しい業種もあるのではないか。クラウドファンディングの利用検討、関連業種に関わる人の学会参加など、会費を上げるほかにも検討することがあるのではないか。

回答：3年前に将来検討WGで会員減少について検討している。学生が卒業後にやめてしまうことが多く、学生へのケアについて検討をした。関連業種の方の学会参加については、特別シンポジウム等の企画を通じて防災実務者に資することで会員増につながることも期待している。今の理事会の方策が十分ではないと思うが、現状を分析し過去の分析と合わせて検討を行っていきたい。

質問：若手の活動を活性化することが重要ではないか。明示的に学生から正会員になる会員にメリットとなるような政策に重点を置いてはどうか。会費が主な収入であり会費収入を安定させることが必要である。必ずしもプロの研究者だけではなく、他学会を参考に会員のカテゴリーを増やして幅広く会員を増やすことはどうか？

回答：サポーター的な会員カテゴリーについても検討したい。

質問：会費収入に占める学生会費の割合について知りたい。

回答：後日、総会ページに掲載する。

意見：学生の会員を学会に引き留めることが重要である。未収会費の納

入を促し、卒業を機に辞めずに、学会に引き留める方策を検討してほしい。

質問：赤字が続いた場合の財政危機はいつ頃になるのか。

回答：昨年度程度の赤字が続いた場合は数年くらい。現在検討している会費改定については来年の総会で会費の改定を行うことを考えている。

質問：一部の会員の献身的なボランティアに頼って会員サービスをしているのではないか。学会活動を縮小させないという方針は重要だが、この点も見直しては。

回答：超人的なボランティアを強いるのは本意ではないので、学会活動の在り方も踏まえて、バランスを検討しながら進めていきたい。今後もご意見をお願いしたい。

意見：会員の減少について検討されているが、物価の高騰もあり、同じ予算額ではどこかを削る必要がある。会費の値上げも致し方ないのではと思う。

回答：周りの物価水準に連動させるのも一つの考え方だと思う。

意見：科研費で会費を支払うことができることが必ずしも周知されていないのでは。学生会員の延長の人を増やすのも大事だが、正会員の値上げを理解してもらうのは大事だと思う。

回答：会費の公費負担についてはそれぞれの機関によって違うかと思うが、会費の支払いについては会員個々で対応してもらえると良いと思う。

意見：地震学会のほかに学会に幾つか入っている要因として、1. 巡検がある、2. 講習会が充実していることがある。どちらも手間暇が掛かるため、実施は難しい面もあるかも知れないが、他の学会では有料で行っている。

回答：地震学会でもジオパーク関連事業等の巡検も行っており、少なくとも今行っている学会活動は縮小せず進めていきたい。積極的に事業活動を行いながら財政活動を検討していきたいので、引き続きご意見いただきたい。

## 11. 閉会

以上により本日の議事をすべて終了し、議長は閉会を宣言した。